



久喜市における 授業時数特例校制度の活用



 久喜市教育委員会



子どもたちが生きる社会を見据えた教育の在り方



教育の目的

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成



社会の変化と時代の要請

教育課程全体をとおした
汎用的な資質・能力の育成

子どもたちの実態

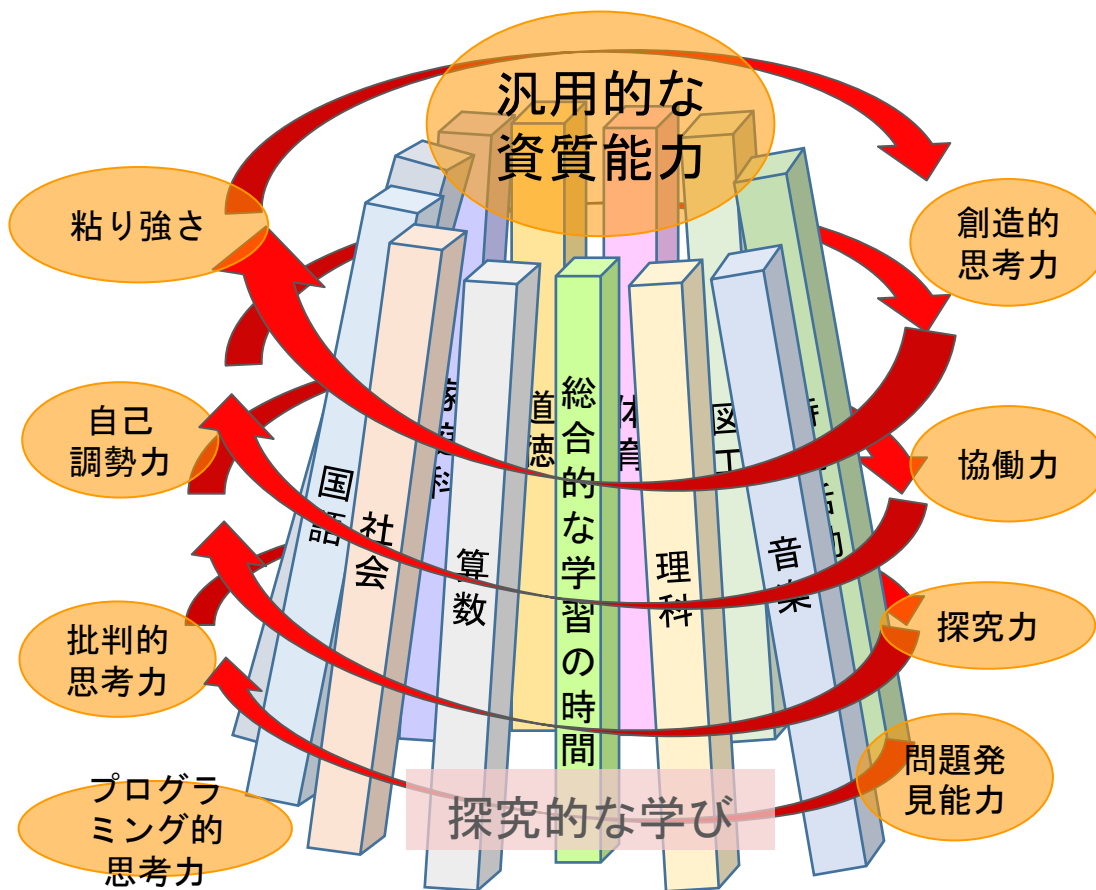
教育の目的を達成するために、
各校が教育課程全体を捉え**全体最適化**することが必要！

教育課程を形成している一つ一つの
意味や価値を認識し、全体を構造的
に捉えながら、再構築する。（各校
のオーナーシップを発揮！）

「学校観」「授業観」の転換

持続可能な社会の創り手を育成していくためには、子ども自身がオーナーとして学びに向かう「わくわくする学び」が必要。その方向性を見出す一つの視点として「STEAM」を重要視することとした。
⇒市全体で、久喜市版STEAM教育を推進

生涯にわたって生きて働く汎用的な資質・能力の育成



久喜市版STEAM教育

- ・ **STEAM化された学び**の推進
教科横断的な学びの中で探究し、社会とつながっている真正な問題解決のために、多くの他者と協働しながら新しい価値を創造する学び（生活科・総合的な学習の時間の充実）
- ・ 教科における**探究的な学び**の充実
- ・ 先端機器を活用したイノベーション体験の充実
- ・ テクノロジーの善き担い手を育む**教育の推進**

市内小・中学校各31校が教育課程の「オーナー」に



地 域

市内全31校がコミュニティ・スクール

連携



学 校

各教科の学び

連携



企 業

各教科の学びを生きた学びへ

生活科、総合的な学習の時間

各教科の学びを活用・発揮

学校行事、その他教育活動全般

多くの企業とも連携

令和5年度より市内の全小・中学校が授業時数特例校に

各校の実態、強み、リソース等を活かした柔軟な教育課程の編制



一人一台端末とクラウド環境を基盤とした学習環境

校 務 D X



授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

久喜市立砂原小学校

昭和51年 開校 （来年度50周年）

児童数 467名

学級数 21学級



授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

砂原小校内研究グランドデザイン

研究主題：久喜市版未来の教室」構想を踏まえた汎用的な能力を育む
先端技術を活用したSTEAM化された学び



授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

カリキュラム・マネジメント

方法

- ・総合的な学習の時間・生活科を軸にする
- ・資質・能力ベースで学びを紐づける
- ・授業時数特例措置の15時間を「ひらめきタイム」として位置づけ、生活・総合に必要な力を教科横断的に学ぶ

目的

- ・各教科の学びをつなげる
- ・児童の主体性を大切にする
- ・十分な時間を確保する
- ・教師が1年の学びをデザイン

ポイント

- ・どこで、どんな学びを差し込むかは、教師のデザイン次第。
- （年間通して見直し続ける）

総合・生活の計画（スパイラル図）の

学年	4月	5月	6月	7月	8月・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
算数	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間	50時間
社会	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
理科	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
総合・生活	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間
音楽	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
体育	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
家庭	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
英語	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
外国語	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間	100時間
総合・生活	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間	15時間

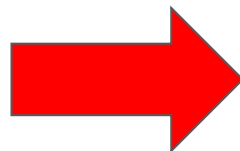
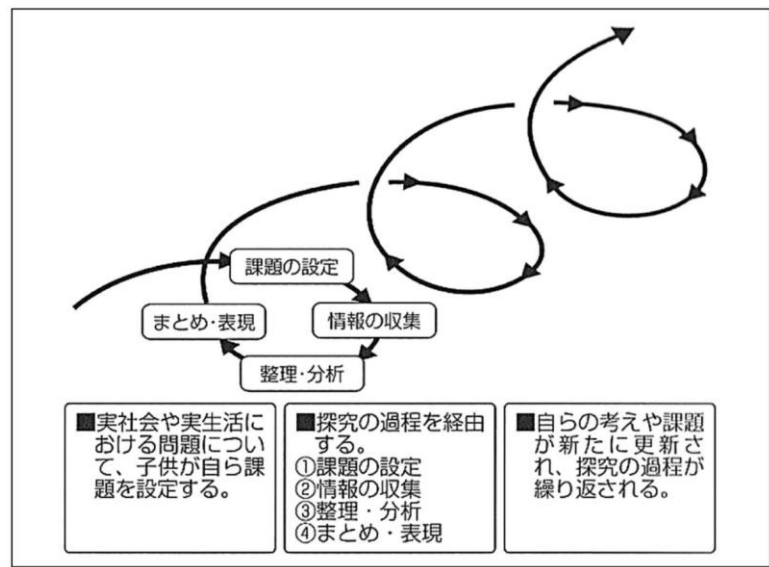
総合・生活	①日本の伝統工芸を調べよう	②伝統工芸を作ってみよう	③伝統工芸を自分たちで開発して創っていく	④伝統工芸を未来につなげよう
-------	---------------	--------------	----------------------	----------------

総合・生活	①日本の伝統工芸を調べよう	②伝統工芸を作ってみよう	③伝統工芸を自分たちで開発して創っていく	④伝統工芸を未来につなげよう
-------	---------------	--------------	----------------------	----------------

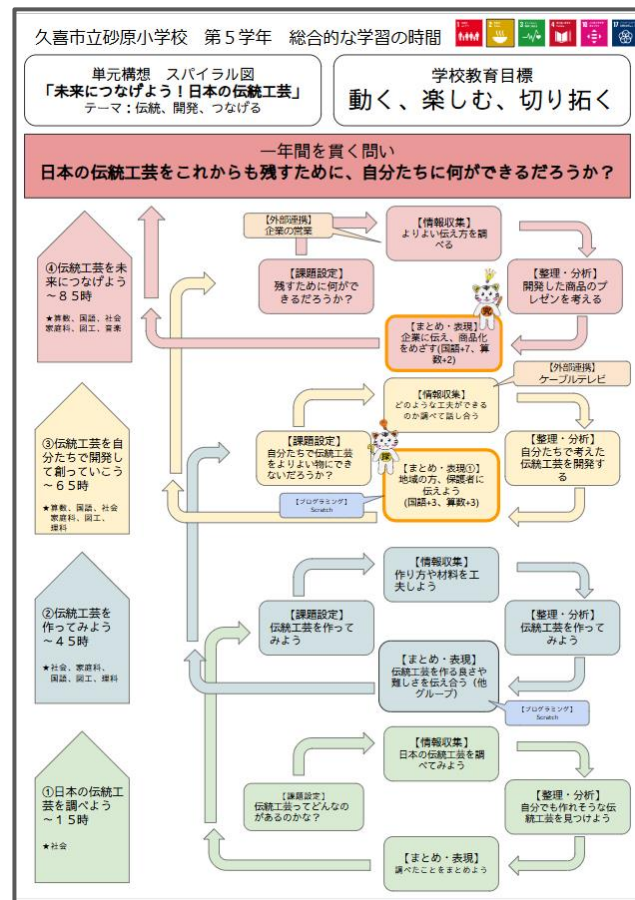
特に時間を確保して探究を深め
させたい学習場面を想定
（ひらめきタイム）
国語—10時間、算数—5時間
⇒生活・総合+15時間

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

砂原小スパイラル図 （総合・生活の単元計画）



ひらめきタイム
（特に探究を深めたい学習場面）



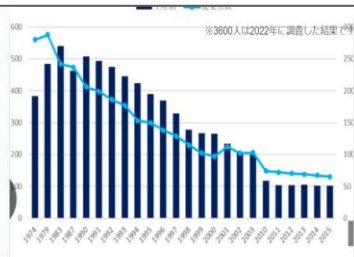
授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

R6年度5年生「未来につなげよう！日本の伝統工芸」

自分の考えや思いを伝える発表に、説得力をもたせたい！

アンケートの作成と集計を行い、割合をグラフで可視化
⇒算数「割合をグラフにして表そう」

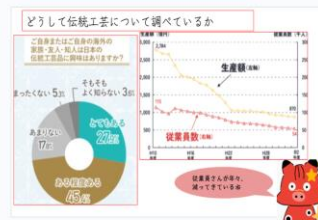
自分の考えをまとめ、筋道の通った説得力のある文章構成を考える
⇒国語「文章に説得力をもたせるようにするには」



次はこのグラフを見てください。ご覧の通り1974年より2015年のほうが生産額とともに従業員数も減っています。1979年は生産額が約600万だったのに比べ、2015年には、約50万円になっています。平均の年間生産額と比べると883万円つまり、10倍近く生産額が落ちてしまったということです。これは、1974年の人に比べ、2015年人は伝統工芸を知らない、または伝統工芸に興味がないということだと考えました。

子どもたちの思いを形に

→日本の伝統工芸を繋げる活動として、すなはらまつり(文化祭)で販売したオリジナル商品の売上金を「日本工芸会」に寄付



授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

総合に必要な力を資質・能力ベースでつなぎ、教科横断的に学ぶためのカリキュラム・マネジメント

各教科等で学習する内容です。○数字は、学習予定時間です。＋○数字は、標準時数内の予備時数を配当したものです。

体験活動等は、標準時数外で配当する予定です。

[illegible]

総合的な学習の時間													Make Happy Project for KUKI												
85時間		久喜市について知ろう				「健幸」について知り、「健幸」を創り出そう				「健幸」イベントを運営しよう					学習を振り返ろう										
先端技術		・タイピング練習 ・Google for education (Jamboard、ドキュメント、スプレッドシート、フォーム) ・Scratch・TinkerCAD				・360度カメラ・動画制作・マイスクリーン ・Root(プログラミング)・ドローン(プログラミング)					・これまで使用したものを児童が選択して活用する														
ひらめきタイム(STREAM)						・私たちにできること(総合10)・提案プレゼン原稿づくり								・新しい事数プラス(プログラミング大会にチャレンジ)											
理科		科学の基礎と安全(11時間)		人や動物の体の仕組み(9時間)		植物の働きと花(8時間)		生物のつくりと生活環境(7時間)		身のまわりの変化と自然(11)		水と大気と土壌(9時間)		月の形と太陽(7時間)		大気の変化と気候・火山の噴火と地震(11時間)		水循環の仕組みと科学者の伝説を読もう(10時間)		電気のしくみと生活(15時間)		人と環境(7時間)		総合的な学習の時間	

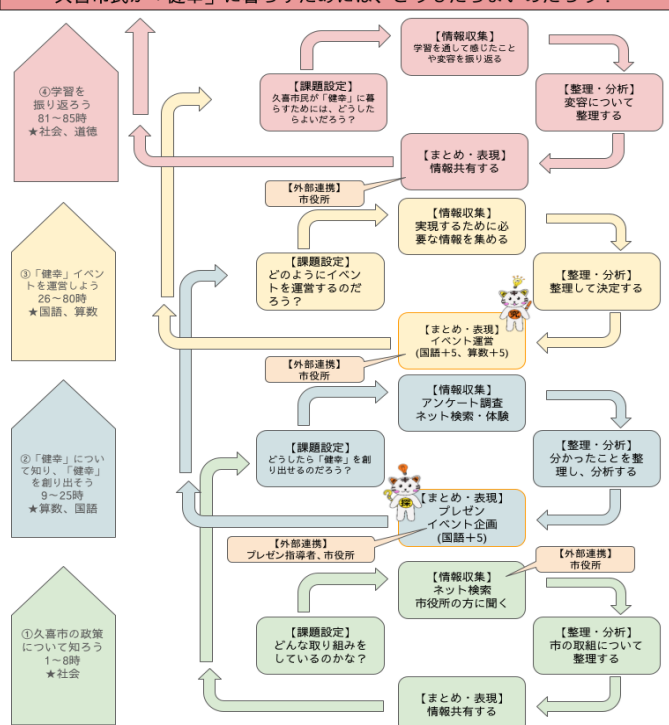
久喜市立砂原小学校 第6学年 総合的な学習の時間

単元構想 スパイラル図
「Make Happy Project for KUKI」
探究課題：町づくり、市政、健康

学校教育目標
動く、楽しむ、切り拓く

一年間を貫く問い

久喜市民が「健幸」に暮らすためには、どうしたらよいのだろうか？



授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

R5年度6年生

「Make Happy Project for KUKI」

データに基づく具体的な事実や考えを基に、筋道の通った文章になるように文章の構成や展開を考える力

⇒国語「デジタル機器と私たち」（6年）

「自然環境を守るために」（5年）

久喜市の人に「幸せ」を感じてもらえるようなイベントを企画！
自分の考えを伝えるプレゼンに、もっと説得力をもたせたい！

より分かりやすいプレゼン資料を作成する力
⇒算数「プログラミング」

授業参観をプレゼン発表、
アドバイス会に設定
→実践に対するフィード
バックを多くもらい、プ
レゼンの精度を上げてい
く。（特色ある教育活動
に対する保護者の方の理
解も促せる）



（表現の場の工夫）

市役所の方に提案し、
コラボイベントを企画
→市のイベント「コス
モスまつり」の企画と
して実際に採用される



どの年齢でも 80% 以下



（体験動画を流す。）ぼく達はその後、本当に鍛えられるのが気になったため、体験してみました。これは、ろうかに作って実際に体験してみた動画です。たった1mだけれど、意外と難しかったです。足のバランス感覚が鍛えられる感じがしました。

疲れるけどそこまできつくないのでいい運動になるし、とても楽しかったです。

このように、体験してみた結果、自然に集中できて、楽しくきたえられるため、費用におもすめです。また、室内でできたり、家にあるテープなどできるので、費用があまりかからないというメリットもあります。

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立砂原小学校）

成果 教師が変わる、子どもも変わる

教師の変容

- ・ 付けたい力への意識が向上した。
- ・ 児童の「学びたい思い」「わくわく」を大切にすることになった。（学びの主語は子ども）
- ・ 試行錯誤、失敗経験をさせることに価値を見いだすようになった。（大人の基準で「成功」を決めない。）
- ・ 教育課程を定期的に見直し、1年間の学びの地図として、自分達で常に編成するようになった。（子どもの学びに伴走）
- ・ 「こんなこともできるかもしれない」と授業展開の幅が広がった。（教師自ら探究的に学ぶように）

児童の変容



- ・ 教科書で学ぶだけではなく、自分事、必然性のある学びとなり、夢中になって学ぶ姿が多く見られるようになった。
- ・ 学ぶことを楽しむようになった。教科学習が不得意な子も、この生活・総合を楽しみに学校へ来ることも多い。
- ・ 実社会と関わる活動を行い、今後も社会と関わっていかうとする気持ちが芽生えた。
- ・ 全教科が繋がっていることを意識して学ぶことで教科学習の意欲も向上している。

大変だけど、やってよかった！
もっと子どもたちが夢中になって学ぶ姿が見たい。

- ＜課題＞
- ・ 各教科の見方・考え方、学びの目的の軸をぶらさずに教育課程を編成する教師の専門性向上
→教師の学びの場、研修の時間を確保
 - ・ 児童・教師の変容をデータ化し、効果を立証すること
 - ・ 年度ごとに教員が入れ替わっていく中で、持続可能な学びにしていくための仕組みづくり

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立栢間小学校）

「地域とともに栢間小150歳のお祝いしようプロジェクト」

子どもの声から子ども主催の周年行事をプロジェクト化
小規模校の強みを活かし、全校で縦割り活動を実施

Q2 栢間小はどんな取り組みをしますか？

A2 子ども主体の学びや潤いと創造性を育むための核となる教科・領域である「生活」・「総合的な学習の時間」の時数を増やし、子ども達の手で、学校と地域を繋ぎ、盛り上げる教育活動を行います。

総合的な学習の時間 20 時間増（合計 90 時間）

生活 20 時間増（合計 122～125 時間）

※「国語」「算数」「社会」「理科」「音楽」「図工」「家庭科」の年間授業時数が減

国語、算数、社会、理科、音楽、図工、家庭科より20時間減じ
生活科・総合的な学習の時間を20時間拡充

The OECD Learning Compass 2030

OECDは、2009年に発表したキーコンピテンシーを発展させ、2018年に、学びの羅針盤2030を発表した。キーコンピテンシーは、トランスフォーメティブ・コンピテンシーとして再整理され、生徒は、よりよい社会を創造する主体であることが、明記された。



Student Agency for 2030
生徒は、よりよい社会を創造する主体です。

OECDラーニング・コンパス(学びの羅針盤)では...
『生徒は、よりよい社会を創造する主体』と言っています。
令和5年度の栢間小は、未来を創造する主体である子ども達に、『幸せを創る力』を育むことを目指します。

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立栢間小学校）

地域連携
企画の提案・練り上げから
地域の方と一緒に行う



実施に向けて必要なチームも、どのチームに入るかも子どもが自己選択・自己決定していく

◆宣伝チーム

- 宣伝ポスター作成
- 記念祭サイト作成・更新（情報発信）
- 当日来場者インタビュー

◆歴史チーム

- 栢間の歴史を調べ、まとめる
- 歴史歴史ルーム整備
- 開祭セレモニーで歴史プレゼン

◆展示アートチーム

- ペットボトルキャップアート
- 巨大かやびょん
- 現在の栢間小ジオラマ 作成

各教科で培った
資質・能力
を総合で発揮

◆スポーツチーム

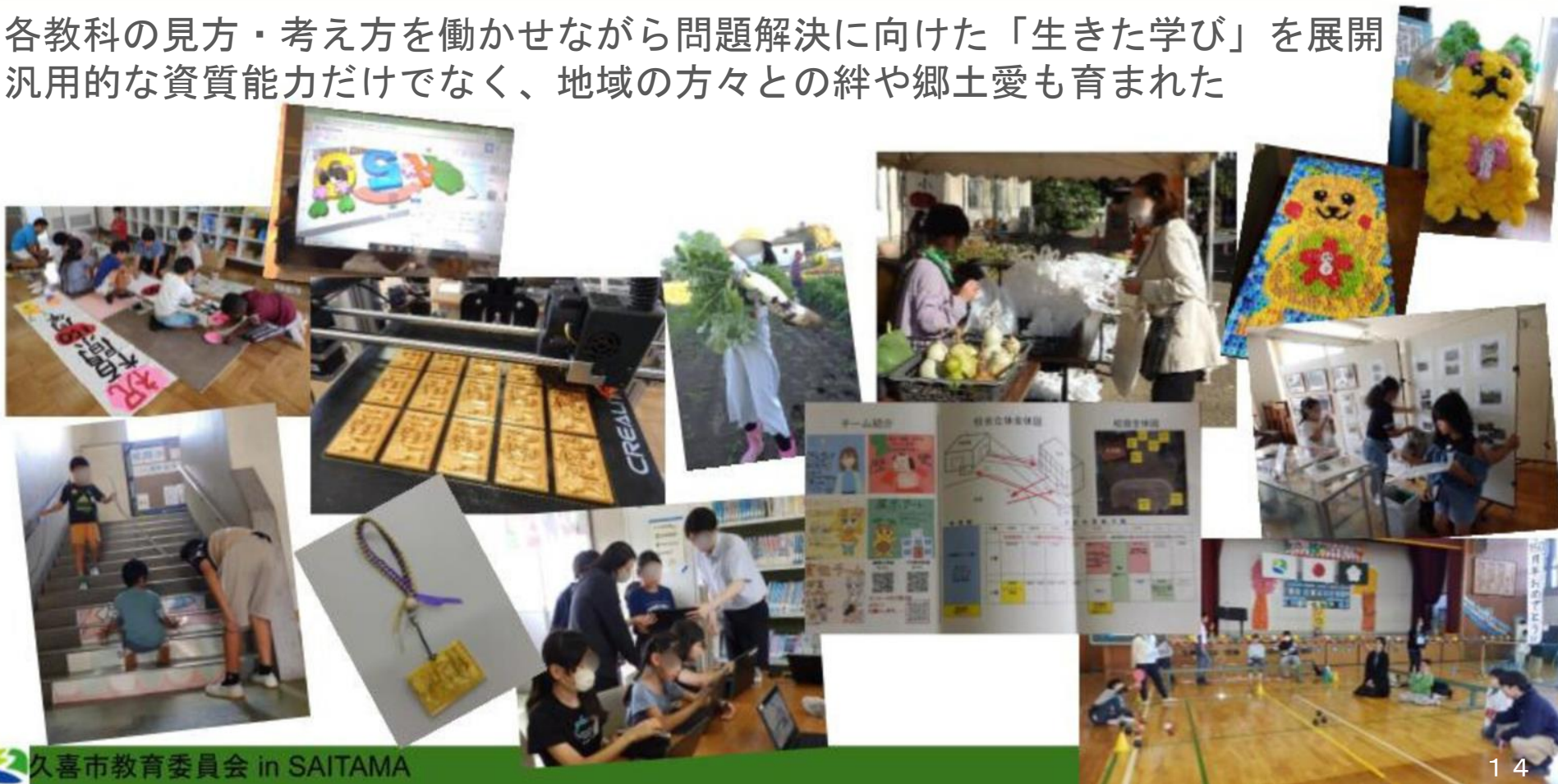
- 外・健康アスレチック準備
- 中・ボッチャ、コーンホール、的当て、ボーリング
- 【誰でも健康的に運動できる】

◆来場者対応チーム

- 記念品やプレゼントを準備する（キーホルダー・エコバック・お花・野菜）
- くす玉作り
- 「階段アート」でおもてなし
- 当日の来場者対応

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立栢間小学校）

各教科の見方・考え方を働かせながら問題解決に向けた「生きた学び」を展開
汎用的な資質能力だけでなく、地域の方々との絆や郷土愛も育まれた



授業時数特例校制度活用事例（久喜市立久喜中学校）

各教科等の年間授業時数

授業時数特例校制度を利用している久喜中学校の授業時数

1年生 国語 4 時間、社会 3 時間、理科 3 時間、音楽 3 時間
美術 3 時間、英語 4 時間 計 20 時間→総合が 70 時間に増

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術 家庭	英語	道徳	特別 活動	総合	合計
1 年	136	102	140	102	42	42	105	70	136	35	35	70	1015
2 年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3 年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

主専攻：生徒が主体的に 3 年間連続で
深める探究活動

副専攻：該当学年のテーマで行う探究
活動

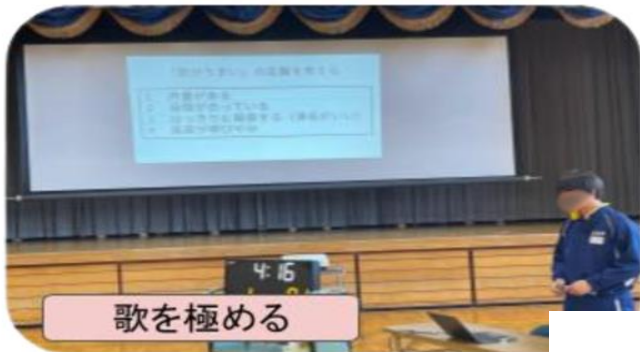
【総合的な学習の時間の内容】

- （1）カリキュラムは並列型で構成し、【主専攻（生徒が主体的に発想する 3 年間継続した探究活動）】／【副専攻（各学年で特に探究すべき内容）】の 2 本柱とする。
- （2）生徒が主体的に発想する探究課題のゴールを「よりよい久喜市を目指して提言をしよう！」とし、SDGs 17 の目標に基づいて探究を進める。
- （3）探究的な学習をキャリア教育の視点で貫き、主体的・自律的・創造的に自己の生き方を見つけようとする態度を育てる。

学年	1 年次	2 年次	3 年次
主専攻 （主体的な探究活動）	【探究のサイクル】を繰り返す 「①課題の設定」→「②情報の収集」→「③整理・分析」→「④まとめ・表現」		よりよい久喜市を目指して提言しよう！
副専攻 （各学年で探究すべき内容）	身の回りの様々な人々と その暮らしを支援する仕組みや人々	職業の選択と社会への貢献	町づくりや地域活性化のために 取り組んでいる人々や組織

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立久喜中学校）

◆第2学年総合テーマ「よりよい自分の人生を見つめよう」の事例



＜生徒の声＞

僕は、総合の時間で「サッカーボールをより遠くに飛ばすには？」というテーマで研究を進めた。実際に授業中に研究したことで、研究前に28mしか飛んでいなかったボールが、42mまで飛距離が伸びた。これは、授業の中だけでなく、サッカーの最中にも実感するほどの変化だった。普段なら届かない場所もキックで届いたり、友達にも「前より飛ぶようになったね。」と言われた。→試行錯誤しながら、自分の思いを実現するために探究することのよさを実感

＜教師の声＞

生徒の思い、考えから「どうしてそう思うの？」「なぜそう言えるの？」といった問いかけ＝「問動」を通して生徒の考えの深化を促すことの大切さを実感させられた。→答えのない問いを前に、生徒と共に教師も探究することの意義を実感

2. 課題



まずはただやってみるのではなく、自分の課題を見つけ取り組んでみました。

実際に買った自分の動画と、ロングキックが得意なプロの選手と比較してみました。比較してみた結果、ポイントが3つあります。

1. フォーム、姿勢。
2. 軸足の位置。
3. キックスピードの速さ。

3番は授業だけでは改善は難しいため、1、2番を研究しました。

改善前



フォームが後ろ体面になっている！→ボールがよく飛ぶ

改善後



自分の力で課題を乗り越える体験とそのプロセスが生徒にとって価値ある学び

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立栗橋西中学校）

1. 特例授業の名前

魅力アッププロジェクト in 栗西

2. 特例授業の時間数

【授業を削減する教科と時数】	【授業を増加する教科と時数】
中学校2年生 国語、数学、社会、理科、英語 各2時間	中学2年生 総合的な学習の時間 10時間

3. 特例授業で目指す探究的な学習内容

【ふるさと久喜を思い、魅力あふれるまちづくりを提案】

(1)課題設定

SDGs17の目標の一つである「3. すべての人に健康と福祉を」を軸に、生徒一人一人が興味・関心のあること(スポーツや食事など)と、健康をかけ合わせて「健康×○○」というコンセプトを採用

(2)情報の収集

インターネット、実体験、関係事業所等への訪問、WEBミーティング、イベント参加、フィールドワーク、Formsを活用したアンケートなどから複数選択

(3)整理分析

専門家の意見聴取、思考ツール、テキストマイニングなどの活用

(4)まとめ・表現

スライド、動画を活用したプレゼンテーション

授業時数特例校制度活用事例（久喜市立栗橋西中学校）

4. 特例授業の実施にあたり児童生徒に身につけたい資質・能力

(1)問題発見・解決能力

- ・実社会・実生活上の経験を想起し、自分事としての課題意識をもつ
- ・各教科で身に付けた力を統合的に活用して問題を発見・解決する

(2)プレゼンテーション力・発信力の育成

- ・課題について分析し、それをそのまま発表するのではなく、そのことについて自分の考えをまとめる。多くの人が納得できるよう、筋道を立てて表現できる力をつける

(3)情報活用能力

- ・情報を主体的に捉え、何が重要かを主体的に考え、新たな価値の創造に挑めるよう、情報入手の手段を適切に選択し、得た情報の活用を通して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりする

5. 特例授業を充実させるための方策

- ・課題設定に至るまでの段取りの工夫
- ・ICTの積極的な利活用
- ・関係事業所等との連携

6. 特例授業の成果確認方法

- ・プレゼンテーションの実施と評価
- ・ホームページによる情報発信



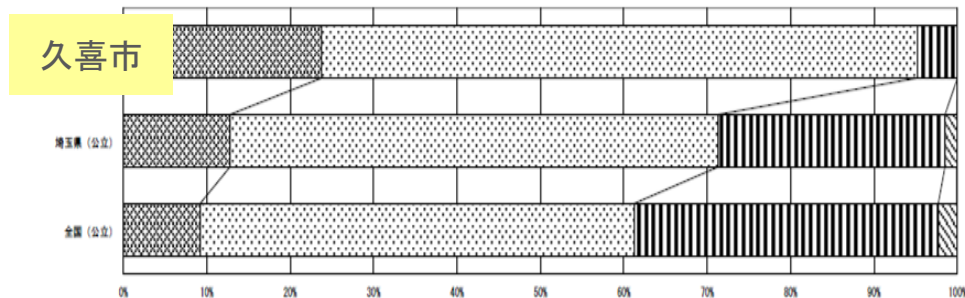
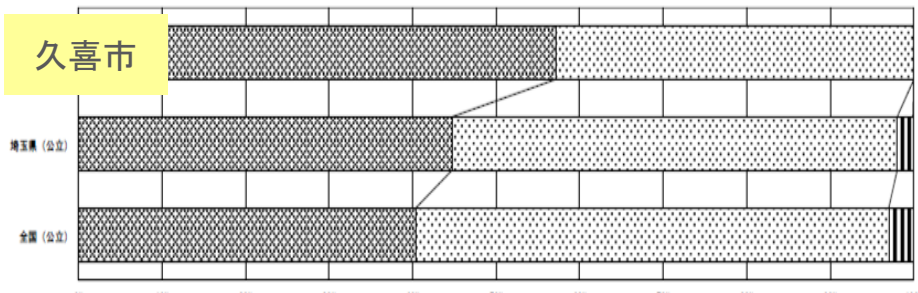
教育委員会主催のプレゼン大会を活用して、地域活性化のため「健康×商業」に焦点をあてて考えたアプリケーションについて市民に向けて発信

成果（教師の意識が変化）

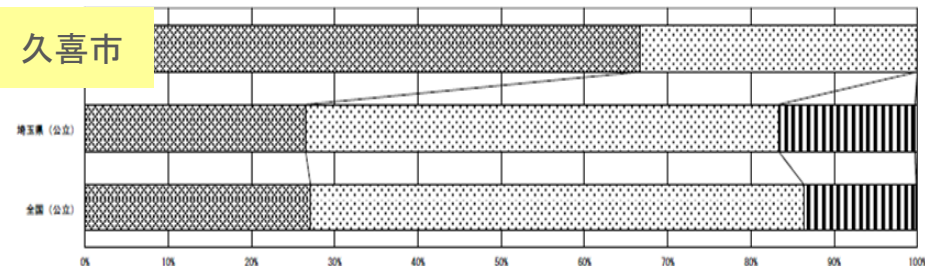
- ◆学びの主語が変化 「教師が、教える」⇒「子どもが、学ぶ」（学びの主語は子ども）
- ◆授業改革をするため、教師が主体的に学ぶように。子どもの変容は教師のにとってもやりがいになっている。

①調査や各種データにもとづき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のDCAサイクルを確立しているか

②こどもが自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思うか



③個々の教員が自ら専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研修等に定期的・継続的に参加しているか



久喜市全体で取り組んだことで、各校が教育課程に対するオーナーシップを発揮するようになった。その結果、教師の授業観が変容し、これからの教育について真摯に向き合い、授業改善に前向きに取り組む教員が増えている。

成 果 （子どもの資質能力の変化）

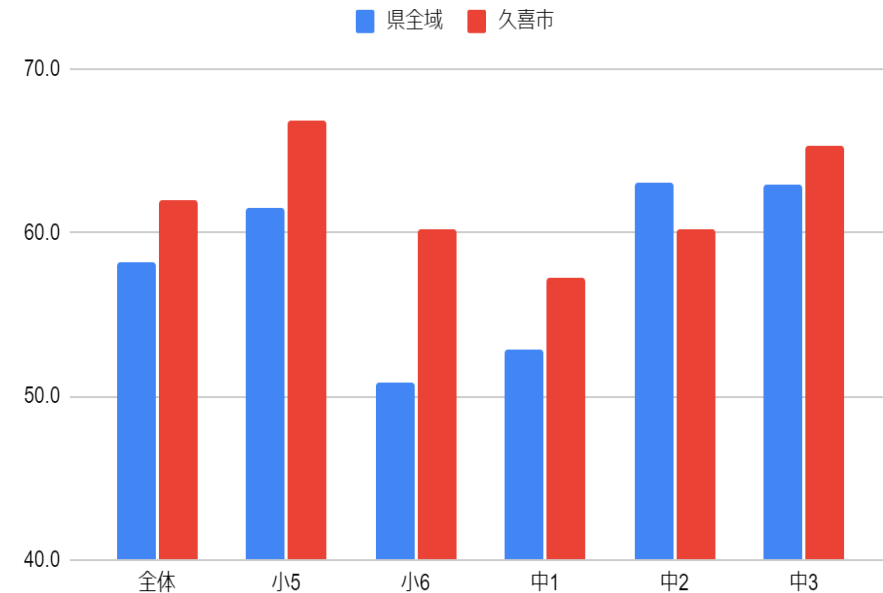
「学びに向かう力・汎用的な能力」の変容



ICT×学びアンケート（株式会社エデュテクノロジー）より

学力を伸ばした児童生徒の割合

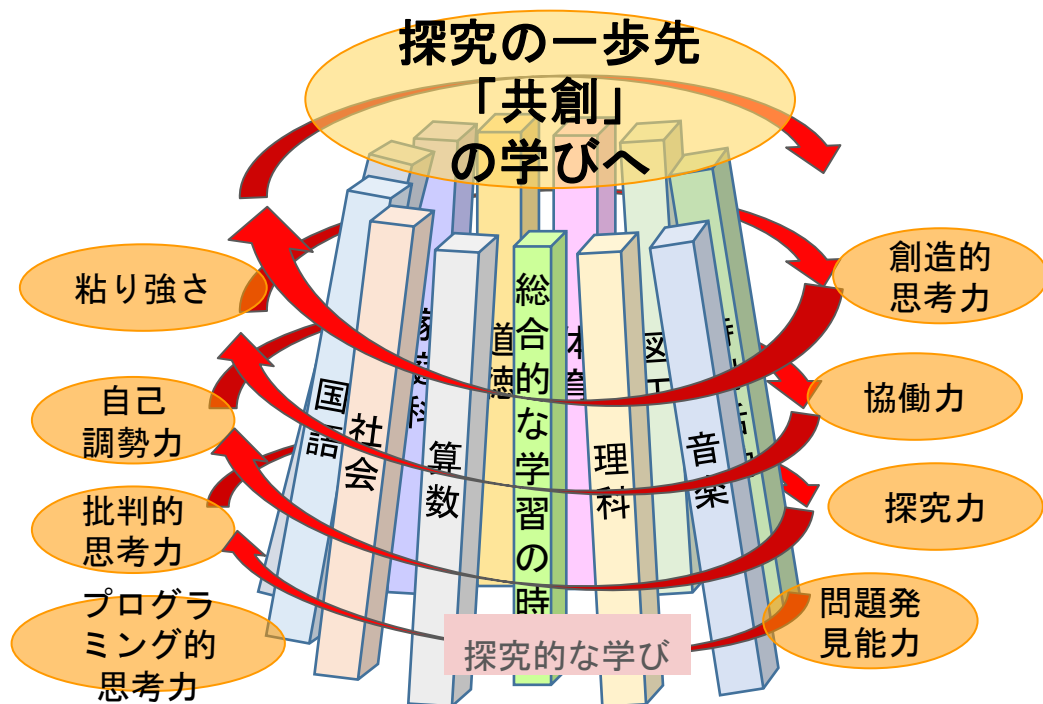
学力を伸ばした児童生徒の割合



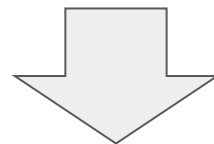
埼玉県学力学習状況調査より

各校さらにオーナーシップを発揮した教育課程の編制へ

授業時数特例校での積み重ねをもとに、各学校それぞれの実態と向き合い、さらにオーナーシップを発揮して教育課程を編成してほしい



令和8年度より全校で
教育課程特例校申請を予定



子供一人一人のよさや能力を最大限引き伸ばし、次代の日本を担う人材を育成するため、学校の特性や実態に合わせて最適化された教育課程の編成していく。

柔軟な教育課程を目指すために・・・

子供や学校の実態に応じた多様な教育課程のニーズ

協働で生み出す新たな価値
COクリエイション科

自分の強みをとことん磨く
スペシャリティーマイナー

英語で広げる探究活動
グローバル探究科

ICTの力で新たな価値の創造を
ICTイノベーション科

1校も取り残さない教育委員会の 研修と伴走支援

教育課程が柔軟になることで、市内の学校間で教育の質の差が生じやすくなる。教育委員会の各学校担当を中心により密に連携を図り、研修の機会を提供したり、必要なサポートをしていく

一方で

教育課程特例校は文部科学省の指定が必要。

⇒前年度の6月～8月に申請をしなくてはならないが、教師がどの学年を担当するか、子供の実態に応じてどういう教育活動が最も子供の心を動かすかなど、前もって分からないことが多い。

⇒前年度の夏に申請するのでは、「子供の実態」に応じた柔軟な教育課程の編成・実施は難しい

次期学習指導要領に向けた期待

柔軟な教育課程の仕組みを、学校の特色を活かすだけでなく「子供の実態」に応じて活用できるようにするためには、前年度の申請・文部科学省の指定が必要なものとするのではなく、学校・市町村教育委員会の判断で当該年度内でも柔軟に運用できるようなものにしていくべきではないか。

付属資料:久喜市全体で教育改革を推進するための方策について



子どもを育てるなら久喜市で！
教育するなら久喜の学校で！

久喜市の学校では、次の3つの柱で教育の充実に取り組んでいます。

- ①次代の世界で活躍する「未来を拓く力」を育みます
- ②人とともに生きる「豊かな感性・尊重する心」を養います
- ③「絆を深め、地域社会と連携した教育」を推進します

久喜市の学校は

全校「コミュニティ・スクール」です

「コミュニティ・スクール」とは、学校に「学校運営協議会」を設置する学校です。学校運営協議会の熟議をもとに、校長がリーダーシップを発揮し、目指すべきビジョンの達成に向かって、学校・家庭・地域がチームとして、地域の力を生かした学校運営をします。
★学校と地域、家庭をつなげ、元気な社会を創ります。



久喜の学校では

①次代の世界で活躍する「未来を拓く力」を育みます

「NEXT GIGA」に向けた「久喜市版未来の教室」

オンライン教育の実施

- 時間・距離に制約されない
- 国内外を問わず、遠隔地とリアルタイムでつながった授業
- クラウドを活用した個別最適な学び
- 学習者用デジタル教科書の活用

EBPM、データ駆動型教育への転換

本質・本質の学力向上 PROJECT

- CBT「久喜市スタッフアップテスト」毎月実施
- 国に届いた無料の塾「くき本塾」
- 小学校高学年「教科担任制」の実施

STEAM化された学び

- 学校に来ることが難しい児童生徒もオンラインでサポート
- 汎用的な能力を育む

久喜市版 STEAM 教育

- ワクワクを核にした探究課題解決型学習 (PBL)
- 充実したプログラミング教育
- GIGA スクール Lab 事業
- 最先端のテクノロジーで学ぶ
- Google for Education パートナー自治体
- ジュニア ICT リーダー (JIL @KUKI) 講座

健康・食育の推進

- 「健康づくり食育推進大会」への参加
- 「健康づくり食育推進大会」への参加
- 久喜市小学生陸上大会

英語教育

- 小学生対象 English Camp
- 全小に ALT 派遣
- 市内中学生に向けた「英語検定受験補助」

文科省授業時数特例校

- 市内小・中学校全校が指定校です
- 探究的な学びの充実
- 教科横断的な学習
- 学びを促進、共有するプレゼンコンテスト実施

久喜の学校では

②人とともに生きる「豊かな感性・尊重する心」を養います

道徳教育

- 「考え、議論する」道徳授業
- 久喜の子ども、つちのこ
- 久喜市教育研究会で研究

郷土愛を育む教育

- 久喜市郷土資料「本多静八」
- 久喜青年会協賛と共催で実施
- 「くき検定」実施

人権教育

- 「超偏差差別の解消の推進に関する法律」に基づいた教育、啓発の充実
- 性的マイノリティにかかわる児童生徒へのきめ細やかな対応
- 「人権感覚育成プログラム」の活用

いじめ防止

- 「いじめ防止基本方針」の確実な取組
- 「中身3要素」での SNS ルール等についての話し合い
- 久喜市版3つのスマイルルール

特別支援教育

- インクルーシブ教育の充実
- 特別支援教育担当者の指導力向上
- こころの教室・情緒の教室
- 中学校通級指導教室(情緒)

充実した教育相談

- 学校相談員、心理専門員、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーの配置
- 面接相談室の開設
- 就学に向けての相談

教育支援センター

- 市内4か所の教育支援センターの充実
- 指導員の配置
- S SW、心理専門員の活用
- 不登校児童生徒支援

久喜市共同オンライン分教室 (KDX)

- 唯一人取り残さず、全ての子どもに学びを保障
- オンライン上に分教室を設置
- 中核校に HR ティーチャーを置く

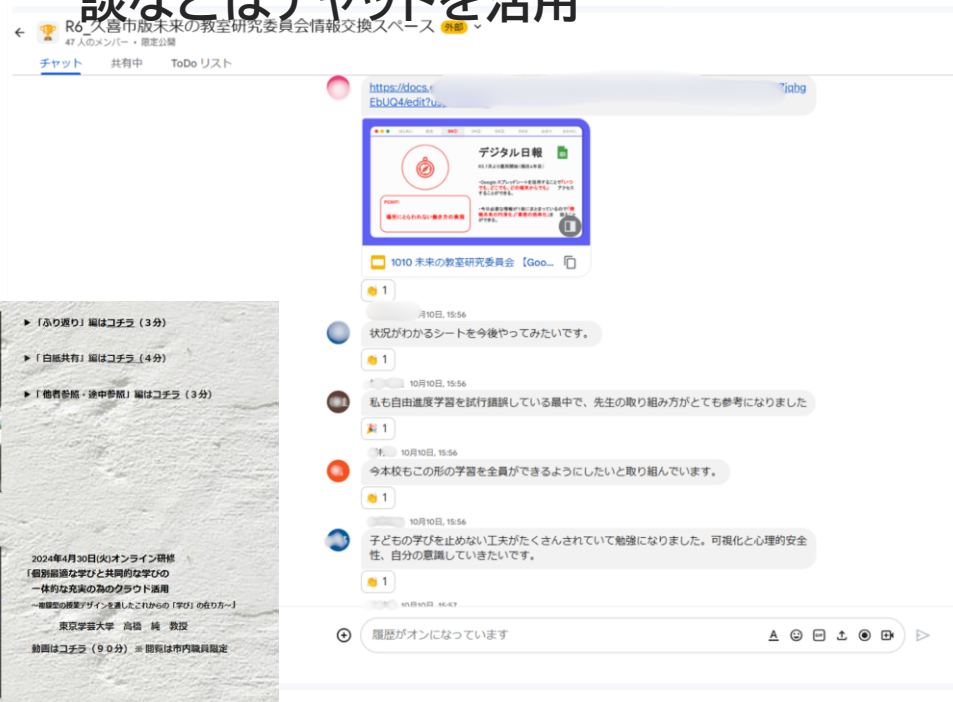
方策1：市内全校を一つのコミュニティに

クラウドツール使用の日常化による逐次的コミュニケーション・情報の即時共有

必要な情報は
教職員ポータルサイトに集約



教職員同士での日常的な情報共有や相
談などはチャットを活用



方策2：市内全校にリーダー（専門医）を育成

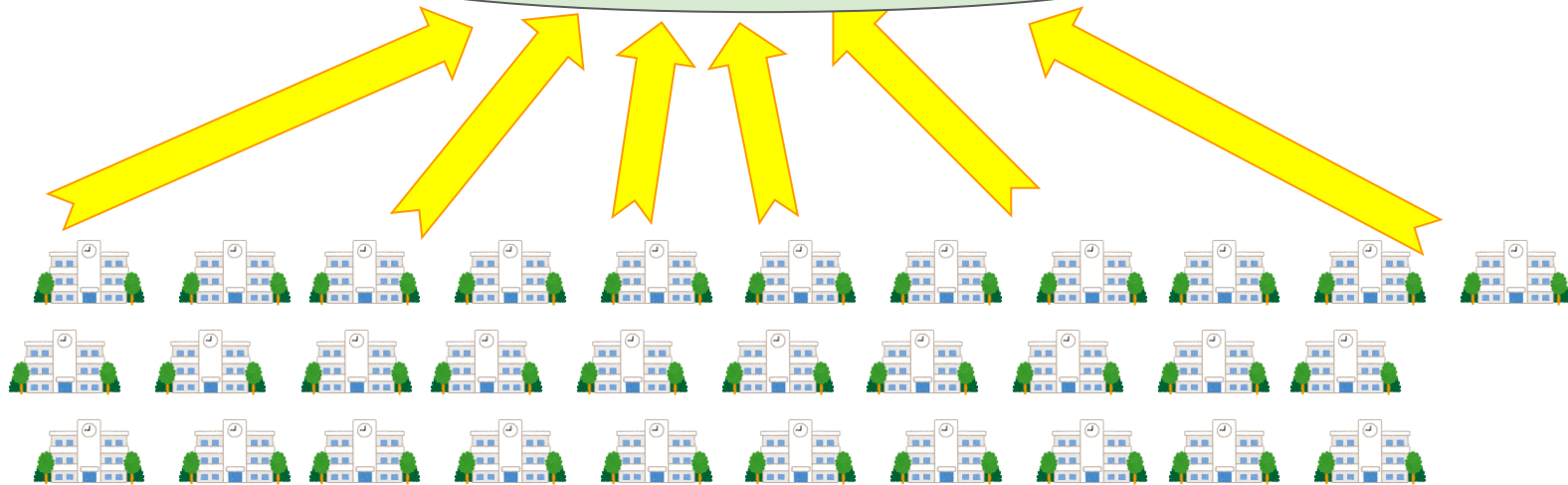
市内各校から推進者を選出

- ・各校の中核となる教員育成
- ・取組を全校で共有する仕組み

久喜市版未来の教室研究委員会

STEAM教育研究委員会

未来の公教育研究委員会



デジタル学習基盤の学び、**STEAM教育**、校務**DX**等を中核の取組に

研究委員会を中核に久喜市版STEAM教育を推進

久喜市版

STEAMXPBL

STEAM教育の推進

学校と社会が繋がると

「学び」はもっと広く、もっと深く

もっとわくわくする

ジュニアプレゼン

アワード in KUKI

全校参加型

プレゼンテーション大会

オンライン予選



対面型決勝戦

GIGA Lab事業

ICT機器の貸し出し

ドローン、Root

3Dプリンタ

アーテックロボ

マイスクリーン

360°カメラ

NEW

AkaDako

SDGs実現に向けた

ESD

カリキュラム
と関連付けた
実施計画の作成



THE GLOBAL GOALS



STEAM教育研究会

各校1名

- ・ 先端機器研修
- ・ 授業力向上研修
- ・ 授業実践
- ・ 教育課程編成



Google

Google for Education

パートナー自治体

ジュニアICTリーダー

(JIL)

スキルアップ研修会



企業連携

市内企業との連携

(Smile Me、amazon、
ホッティーポリマー)

その他多くの
企業とも連携

久喜イノベーションの会

との連携

タイピングコンテスト

ロボコン

ロケット教室 等

方策3：いつでも見直せる「単元配列表」の共有

オンラインホワイトボードツールで単元を簡単に動かしたり、教材のリンクを貼り付けたりすることで、日常的に単元配列を見直せるようにした。また、クラウドの利を活かし、教育委員会とも常に最新のものを共有している。

久喜市立〇〇小学校用 探究マップ（単元配列表）テンプレート（…

【3 学年】单元配列表

久喜市立 ○○学校【3 学年】单元

付箋を動かすように、単元動かせるので、簡単に順番を入れ替えたり、組み合わせたりすることができる。

単元計画や学習
材も各教科のド
ライブ内に蓄積
されていく

コピーして
お使いください

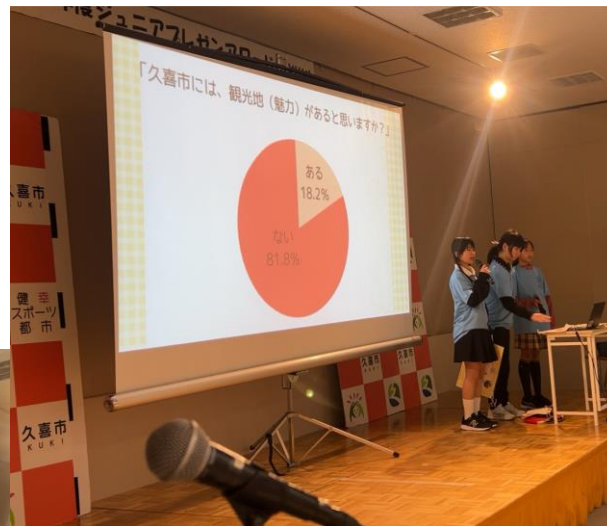
各教科等で身につける資質・能力を
生活・総合へ「活用・発揮」するつながりを赤矢印

ESDにかかるマーク（探究的な学びに 大きく関わるもののみ）

生活・総合での学習対象が
各教科等の学びに「利用・促進」されるつながりを緑矢印

方策4：学びと社会が繋がる「まとめ・表現」の充実

教育委員会主催で全校参加型ジュニアプレゼン大会を今年度より実施



市内大型商業施設
と連携して実施

2/1
(土)

EVENT INFORMATION

2024年度
ジュニア
プレゼンアワード
in KUKI

久喜市内の予選を勝ち上がった12校によるプレゼンアワード決勝戦となります。

テーマ Next Innovation～やってみよう！～

出場校 「小学生の部」7校・「中学生の部」5校

実行委員 実行委員長 会田 聡子 実行委員 山崎 誠一 実行委員 山崎 誠一

太田小	6年生	色のはなはつた大賞～色ってすごい～
久喜小	6年生	Next Innovation 秋葉原をやってみよう
東洋小	6年生	スゴ～ッな未来大賞
東洋小	6年生	～自然の中で緑と自然をつなぐ新しい遊び～もう一つ公園
東洋小	5年生	ごみ問題に もっと関心をもうろう！
坂田小	5年生	6時間授業を充実させ 自主性を身につけよう！
砂原小	6年生	久喜市の魅力大賞
久喜中	2年生	イベントを盛り上げる大作戦
久喜中	3年生	久喜市に光を！～魅力あふれるかるた大会～
東洋中	2年生	店の発展と健康な生活
東洋中	1年生	防災対策やってみよう
東洋中	3年生	読書のすすめ～「白ゆき姫殺人事件」～

■時間 13:00～16:00
(開場12:30～)

■会場 3F モラージュホール

■主催 久喜市教育委員会

観覧無料